

シリーズ
水辺の鳥たち
(ワカゲホンセイインコ)

全長40センチくらいの綺麗な鳥ですが、桜などの花芽を食べてしまうこともあります。源流付近でたびたび確認されていますが、実は外来種で、本来は北緯20度以南に生息。ペットとして飼われていたのが野生化したのです。外敵を避けて集団でねぐらをとる習性もあり、増えすぎて問題になっている所もあるとか、鳥の世界も年々変化しているようです。(2021年に源流の農家の竹林で撮影:水野勉)

手渡しで
ホトケドジョウを感じて
—子どもたちの白子川体験

水辺の会では白子川流域での各小中学校の白子川授業・体験を支援しています。今年度は、6月初めの大泉南小学校に始まり、11月末の八坂小学校で終了しました。

▼上流域では大泉南小学校4年生、大泉第二小学校2年生が、中流域では八坂小学校4年生、泉新小学校2年生、大泉北小学校3年生が白子川体験しました。中学校では2校。東京学芸大学附属国際中学3年生と大泉高校附属中学1年生が、源流で座学し川体験しました。

こうして今年度、白子川流域では7校が白子川の魅力に触れることができました。

▼体験のポイントとして、今年は古風な簡単な方法がよかったと思います。それは「ホトケドジョウの手渡し」です。水が漏れないようにぎゅっと両手で水を溜めたところへドジョウを入れる⇒手の平でドジョウの動きを感じたら⇒次の人の手に移し、全員がドジョウという生き物を感じる。この「手渡し」方式は多くの現場でやりましたが、生徒たちは静かに興奮してざわめいていました。

▼年間で数百人が白子川で生き物と出会いました。川の不思議、生き物の姿、湧き水のきれいさと泥の臭いetc自然の多様さにたっぷりと触れることができました。

実施にあたっては、和光第五小学校前の〈わくわくパーク〉を拠点に活動している「白子川と流域の水環境を良くする会」の多大なご協力をいただきました。お礼申し上げます。

(菅沢 博)



「子どもたちは、春・夏の2回の川体験を経て、白子川がとても近い存在になってきました。」(N先生)

第21回『白子川源流まつり』が開催されました

今年は4年ぶりのフルバージョンの開催となり、楽しみにしていた子供たちや地元の皆さんで大いに盛り上がりました。

今回はNEW企画もたくさん登場！『白子川水族館』では大型水槽で白子川の水中を再現しました。前日に捕獲した大型カワムツを始め白子川にこれほど多種の生きものが生息していることに驚く人たちが大勢いました。『バルーンアート祭り』では可愛いホトケドジョウをゲット、『弁天様に祈ってコイン落とし』では神主が登場し、子供たちは運を祈ってコインを的めがけて投げっていました。

『生きものコーナー』はいつも子供たちでいっぱい。カエル博士の話を中心に聞くカエル大好き女子が現れたり、ホトケドジョウのお腹の色を顕微鏡で観察する子が列をつくったり大賑わいでした。またアメリカザリガニはやはり人気の的、初めて触る子もいて、よい体験になったかと…。

そのほか『白子川探検ツアー』や『水質検査体験』『ぶんぶんゴマ』等の



◀コインを投げる前には神主さんのお祓いを受ける



▲大人も元気！おなじみゴージャスな水族館

▼「早押し白子川クイズ」は参加希望者が殺到でした



▲水槽にはアブラハヤ、ホトケドジョウ、ヒメダカ、ヨシノボリ、モツゴ etc.

◀源流まつり限定のホトケドジョウ・バルーンをゲット



体験プログラムにも多くの子供たちが参加していました。ステージでは、例年通りの素敵な歌や演奏、「おらが川おらが村」対談や子供たちの早押しクイズなどが行われました。

ボーイスカウトの「釣り堀ゲーム」、大泉図書館の展示と本の提供、生活クラブ生協の『ガチャでお菓子ゲット』も大人気で祭りを盛り上げていました。

お祭りの魅力って、やはり地域の多

くの人たちを結びつけるコミュニケーションの力、きっとこれがあるから素晴らしいんですね。

最後になりますが、ご協賛をいただいた商店・企業、地域の皆様に心より感謝申し上げます。

手作り感満載の白子川源流まつりもさらにバージョンアップしていきます。また来年、白子川で会いましょう！

(植原正幸)

定例活動報告 (2023年8月～2023年11月)

日時 (調査開始時間)	天気	気温 (°C)	源流部 流速 (km/h)	源流部 流量 (L/秒)	調査地点	水温 (°C)	水深 (cm)	pH	COD (mg/L)	収集ゴミ 90L (袋)	参加 会員数 (名)	
2023/8/27 (13:30)	晴	35	0.189	66	源流部	22.5	5	6.65	2	可燃ゴミ 0袋	11	小中高生がそれぞれの も、2021年に当会の出 3名が高1になって来て
					井頭橋	21	9	6.45	2	不燃ゴミ 0袋		
					井頭～火の橋中間	20.1	27	6.43	2	剪定枝束 9束		
2023/9/24 (13:30)	晴	27	0.4	162	源流部	18.8	11	6.46	2	可燃ゴミ 8袋	15	全部で40名以上が川の 園に来て川に気づいた いた。火の橋から上流部
					井頭橋	19	12	6.44	2	不燃ゴミ 1袋		
					井頭～火の橋中間	18.5	30	6.4	2	草束 30束		
2023/11/26 (13:30)	曇	7	1.03	37.2	源流部	-	0	-	-	可燃ゴミ 17袋	14	遊遊スクールとの同時開 刈り等を行った。◆な 草を刈る必要があり、1 希少種や生き物の隠れ ズガニとまさかの遭遇。 見。緑橋下にはモツゴガ
					井頭橋	17.3	7	6.44	2	不燃ゴミ 0袋		
					井頭～火の橋中間	17.3	28	6.4	2	草束 15束		

※ CODとは、水の汚れを示す指標で、2は最低値できれいな水、4～6は少し汚れている、8以上は汚れている。当会では、低濃度簡易測定キットで判定している。

※ pHとは、酸性とアルカリ性を示す指数で、pH7が中性、7より大きいとアルカリ性、小さいと酸性 ※表の(-)は、水がなくて測定不能、(欠)は測定機器の不具合等で欠測の意

◆水辺の会では、定例活動において水質調査とともに放射線測定(2ヶ所で10分ずつ、単位はμSv/h)も行っており、その結果は以下のとおり。

8月：0.08/0.08(源流部) / (井頭橋下) 9月：0.07/0.087(源流部) / (井頭橋下) 10・11月は測定していません。

◆10月定例活動は源流まつり開催のため実施なし。11月定例活動は遊遊スクール同時開催のため縮小して実施。

「会場めぐりクイズ」にチャレンジ!

源流まつりで子どもたちが、会場各所にあるヒントを探しながら解答したクイズです。さて、大人のあなたはヒント無しでも解ける? ぜひ挑戦を! (③祭りの名を書く⑥生きものの絵を描くは省略、答は最終頁)

- Q① ホトケドジョウのひげの数は?
 Q② マルバヤナギについて間違いはどれ?
 樹齢約110年/川や池の近くに生える/葉が丸いからマルバ/
 別名アカメヤナギ/大泉井頭公園に3本
 Q④ 源流付近にいるカエルはどれ?(複数可)
 アズマヒキガエル/トウキョウダルマガエル/ニホンアマガエル/
 シュレーゲルアオガエル/ヤマアカガエル
 Q⑤ アメリカザリガニの足の数は?

水位測定のはなし・その1 なぜ続ける?

水辺の会では発足以来、地下水位の測定を続けてきました。下のグラフにもあるように降水量と地下水位の変化は一雨が降らず地中の水分が少なすぎると多少のずれは生じますが一相関が確認できます。



この大泉地域はまだ畑が残り、地下に浸透する仕組みができていますし、さらに雨水浸透柵を設置すれば地下の水位は高くなります。一般的に地下に浸透する雨水は1日1[㍊]・年間365[㍊]なのが、浸透柵を設置すると1日1.5[㍊]・年間547[㍊]になると言われています。多くの雨水を浸透させることが、井頭池の湧水量にもつながります。

水位の測定は地味な作業ですが過去20年以上人が入れ替わりながらも測定してきたデータは、会の貴重な財産となっています。

(八本賢二)

カエル翁、どうぞ安らかに (池田正さん追悼)

「ちょっと検査入院してくっから!」と、くしゃくしゃの1万円札をいつものようにぼ〜んと投げるように会費と寄付金を届けてくれたのが、総会(6月18日)の1週間前。これがカエル翁、池田さんとの最後の別れとなりました。



池田さんといえば、『偉大なるカエル大王の物語』(会報に掲載)。人間の未熟さと人間社会の愚かさを風刺したその作品はどれも秀逸で、人間の驕りを諭すカエル大王は、カエル博士であった池田さんのまさに化身でした。

それからもう一つは、ドイツ語博士。80歳を超えても学習意欲は衰えを知らず、語学“通学”されながら、ゲートにカント…原書で読まれていたのには本当に驚かされました。葬儀の際、遺影の後ろの本棚に積まれた、池田さんに愛された哲学書や文学書の全集物が泣いているように見えました。

池田さん、以下はご報告です。池田邸の“まちの掲示板”は、まちセンと一緒に水辺の会も引き続き使わせていただくことになったよ! 会報など会の活動を責任持って発信 & 管理していくからご安心ください。

長いことお世話になりました。会へのご貢献、沢山beerをご馳走になったこと、忘れません……合掌

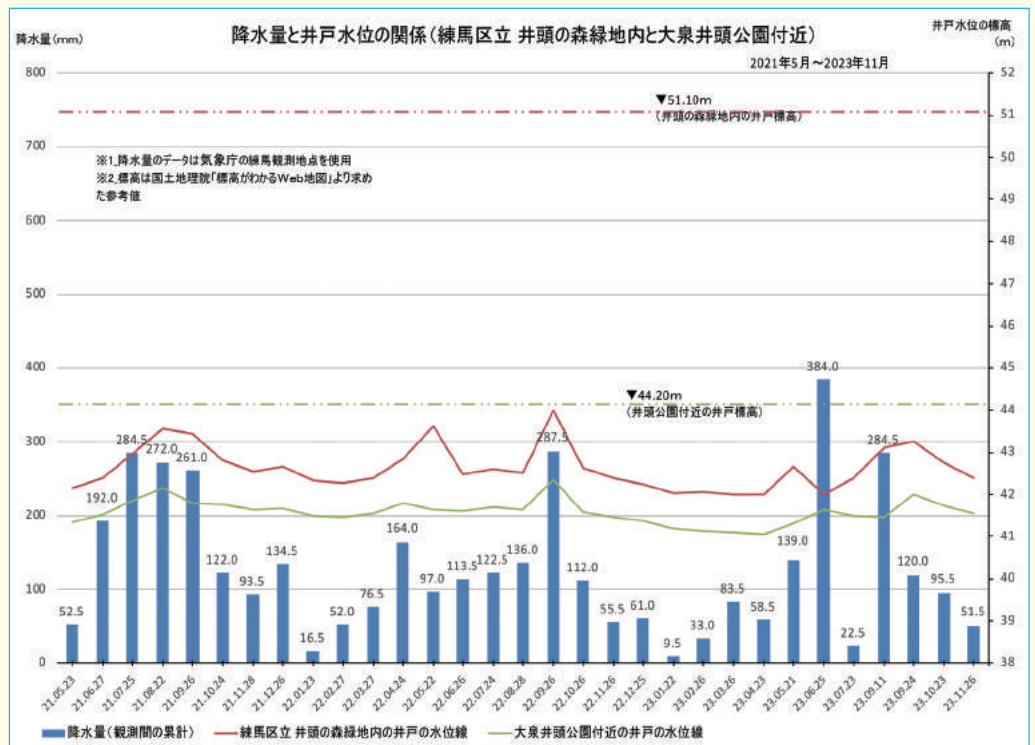
(永井薫)

主な活動・特記事項

のテーマをもって多数参加してくれた。なかで
 前授業を受けた、当時に2だった生徒たち
 くれたことに感激。ホトケドジョウもたくさん。

の中に。学校が6校と広範囲だった。隣の農
 という親子も参加。熱心に生き物観察をして
 部は行政による草刈りが入ったばかりだった。

開催で定例活動は縮小。少人数で源流部の草
 ら、枯れた水草が土に返りヘドロ化する前に
 2月3日に有志で行う。草束・袋詰め約70。
 家として一部を残す。井頭池のふちで老モク
 クビキリギス(冬を越す珍しいバッタ)を発
 見した。



活動記録

2023年8月～11月

8月

- 1(火) JCOM「ねりまホットらいん」で1か月間白子川を放送
- 12(土) 「北山わんぱく夏祭り」見学
- 26(土) 運営会議
- 27(日) 定例活動

9月

- 9(土) 竹炭づくり
源流まつり実行委員会①
- 17(日) WE LOVE 白子川の会
- 21(木) 八坂小学校4年生川体験
- 23(土) 運営会議
- 24(日) 定例活動

10月

- 7(土) パルシステム助成金伝達式
- 9(祝) 源流まつり実行委員会②
- 10(火) 大泉第二小学校2年生町探検受入れ

15(日) WE LOVE 白子川の会

22(日) 第21回白子川源流まつり

28(土) パルシステム運営委員が白子川訪問

11月

- 12(日) 「めいゆうこどもまつり」出展
- 19(日) WE LOVE 白子川の会
- 25(土) 運営会議
- 26(日) 「ねりま遊遊スクール」初実施(定例活動は縮小実施)
- 30(木) 八坂小学校4年生川体験

【クイズ答】

- ① 8本
- ② 最後(正解は2本)
- ③ 全部います
- ⑤ ハサミも入れて10本



Information



「ねりま遊遊スクール」 開講報告！

11月26日(日)午後、霧雨まじりの冬空でしたが、会として初めて練馬区教育委員会の委託講座を11名(小学生6名、大人5名)の参加でおこないました。「白子川の湧き水とホトケドジョウの観察」

という内容で、胴長を着た参加者は“水を得た魚”のごとく川の中を動き回り、何匹もホトケドジョウを見つけ、クサガメやモツゴ、滅多にお目にかかれないシマヨシノボリも捕まえて、時間いっぱい水辺を楽しんでいました。



「ねりま遊遊スクール」の様子

最後のギンブナ？



7年前の2016年に、大泉南小学校の玄関にある水槽に白子川の魚類を入れました。貴重なギンブナも。そのギンブナはずっと生きながらえていましたが、今年の春に水槽が壊れたため同校の池に放流したようです。実は源流部では姿を見なくなっている魚、小学校の池で生きているのか…、次号でレポート予定です。

***** <ご報告> *****

市民活動助成金を獲得しました！

しばらく獲得できなかった助成金がようやく「パルシステム市民活動助成基金」で決まりました。当会にとって2016年に受けて以来、二度目となります。応募58団体から12団体が選ばれ、自然環境系は当会のみ。正式な伝

達式(授与式)や現地視察(審査員3名の方が白子川を視察)を経て、助成金20万円を受け取りました。2024年3月末まで、この資金を有効活用していきます。



活動予定

*毎月第3日曜日にWE LOVE 白子川の会を、毎月第4日曜日に定例活動(“川を楽しむコーナー”併設)を、予定しています(定例活動は井頭公園で13時半から。どなたでも参加できますが、新型コロナの感染状況により、自粛または縮小する場合があります)。



編集後記

第57号の「アオサギ」を皮切りに1面を飾ってきた鳥シリーズは、今号をもって終了します。水野さんをはじめ白子川カメラマンの方々には大変お世話になりました。これからも、源流まつりなどの機会にご紹介していければと思います。新シリーズについては目下鋭意検討中。乞うご期待です。

2023年は小中学校の川学習支援が質量ともに一段と充実した年になりました。彼らの行動や質問、発表から、私たちが多くを学びました。特に川体験を共にすると、事故のないように見守る気持ちを持ちながらも、一緒になって空、空気、風、水、匂いを体中で感じ、生きとし生けるもののいのちを感じ、幸福感に包まれます。

2024年もいっぱい川に入るぞー！(喜)



発行 白子川源流・水辺の会
<https://shirakogawa.tokyo/>
 編集 小川 郁/喜多浩子/高宮信三郎/
 永井 薫/日高美南子/松岡直子
 題字：竹内尚代
 レイアウトデザイン：井之上聖子
 発行部数 1,200部
 共同代表 菅沢 博/岡崎一成
 事務局 練馬区南大泉1-10-5
 03-3923-8430 菅沢 博
 ※この会報は年3回発行しています

